

大好きな故郷、北海道で、 社会基盤を整え暮らしを支える



空知総合振興局札幌建設管理部
当別ダム建設事務所 第二技術係
主任 高橋 育子 さん

**ダム建設という
大きな事業の中で、
道路の付替工事に
取り組み、供用開始に向け、
時には悩みながらも
確実に前進するよう
努力しています。**

フィールドワークは貴重な経験 10代から役立つことを目標に

社会人になってからずっと、道路の仕事に携わってきた高橋育子さんの現在の職場は、当別ダム建設事務所です。所属する第二技術係は、ダム建設によって水没する道道、町道、林道の付替を行うところで、ダム建設の事務所ではありますが、道路の仕事に従事しています。

高橋さんが土木の世界に興味を持つようになったきっかけは、中学の歴史の時間でした。「文明が栄えたところには必ずといっていいほど土木構造物が大きく寄与していたことに、大変興味を持ちました。人々の営みを支える土木構造物の意義に、とても感激したんです。自分も社会基盤の整備に携わり、少しでも人の役に立つことができると考えました」と、中学生の段階で明確な目標ができたといいます。函館市で生まれ育ち、中学卒業後は函館工業高等専

門学校へ。将来の夢に向かって5年間、しっかり土木の勉強をしようと入学しました。ジャンルからいって、女子生徒は少ないだろうと予想はしていたものの、実際に学校へ行ってみると、女子は高橋さん一人だけ。「正直、最初は戸惑いましたが、すぐに慣れました。まわりの男子生徒も、女子だからと特別な目で見ることもなく、あっという間にワイワイ楽しく過ごすようになりました」。男性の多い環境に居ることは、この時から特に気にならなかったそうです。

学生時代は、机上の勉強も大切にしてきましたが、自分の足で歩く屋外での実習は、貴重な経験になったそうです。例えば測量実習では日没まで数値が合わないと言った皆で悩みながら、何度も機械をのぞいたこともあり、今となっては良い思い出です。その頃は、道路に限らず土木全般を学び、幅広く知識を蓄積していきました。

熊と遭遇した八雲時代、 楽しみは秘湯巡り

就職を考える時期がやってくると、高橋さんは自分が生まれ育った北海道が大好きなので、故郷のために何かしたいという思いから道職員に。最初に配属された旧函館土木現業所の八雲出張所には、6年間在籍。その後、旧小樽土木現業所の蘭越出張所でも6年間。現在の当別ダム建設事務所は3つ目の職場です。

八雲出張所では、豪雨による道道の決壊に伴い、復旧作業を何度も行い、地域住民の生活が1日も早く回復するよう、力を尽くしました。住民から「道路が直って助かります」と言われた時は、うれしい気持ちがこみ上げてきたと同時に、維持管理の重要性を再認識。八雲でのエピソードとして、車を運転し現場に向かっている途中、建設中の道路のアスファルトに熊が寝そべっていたことが今も心に焼き付いているといいます。エリア内には、銀婚湯など秘湯ともよばれる温泉がたくさんあり、あちこち巡り、のんびりリフレッシュして仕事に臨むのが習慣でした。

トライする女性大歓迎 もっと仲間を増やしたい

蘭越出張所では、観光地間をアクセスする道路事業に携わり、地元の方だけではなくその土地に不慣れな方も多く通行することから、安全にかつ快適に通行できるよう心を配りました。

当別ダム建設事務所での付替工事は「これまで経験してこなかった規模の事業であり、林道は規格や目的も違い、新しく覚えることも多岐にわたります。大変な面もありますが、とても勉強になりますね。供用開始のスケジュールが決まっているだけに、作業が遅れては大問題。天候は工事の進行状況に影響を及ぼしますので、インターネットでの天気予報のチェックは欠かせません。また、職員間では連絡を密にすることを心がけ、予想外の事象が起こった場合は、全員で力を合わせて解決に臨んでいます」と、チームワークの結束は、がっちり固いようです。

まだ仕事を始めた頃は、女性の現場監督員も少な



当別ダム建設事務所

かったようですが、時代も変わり、今はごくごく当たり前。

「確かに男性の多い職場ではありますが、女性だからという理由でためらうことなく、土木に興味のある女性は、トライしていただきたいですね。私も女性の仲間が増えると嬉しく思いますし」と、高橋さんは今後、もっと土木の世界に女性が進出してくることを期待しています。



付替工事中の道道当別浜益港線